



森の小さな音楽院

桑島 弥生 札幌市立白石小学校（5年）

第24回北海道教育美術展奨励賞作品

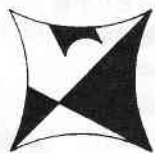
評

よく工夫された色彩や構図により、音楽がきこえるような楽しい作品となっている。

目次

全道造形教育研究大会によせて……………2
「アート・フロンティア・北海道」への旅立ち ……3
第48回全道造形教育研究大会・留萌大会……………4

私の学校・私の実践……………6
第49回全道造形教育研究大会・オホーツク大会…………7
第25回北海道教育美術展／あとがき……………8



北海道 造形教育 連盟報

No.106 1998.7.10 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒004-0845 札幌市清田区清田5条2丁目18-1

札幌市立清田南小学校 藤井 正治

☎011-881-1975 FAX011-881-9759



全道造形教育研究大会によせて

北海道造形教育連盟 委員長

芝 木 秀 昭

(札幌市立手稲鉄北小学校 校長)

21世紀を目前にした今日、増加傾向にある不登校、大きな社会的関心がもたれているいじめ、また来るべき学校週五日制完全実施や生涯学習社会の構築など、多くの課題が学校に寄せられています。

このような時に、第16期中央教育審議会が五章構成の第二次答申をしました。その中で「一人一人の能力・適性に応じた教育」を第一章にあげ、基本的な考え方として「生きる力を育む」ことを目指し、個性尊重の考え方に立つことの必要性を強調しています。

また、昨年の11月に教育課程審議会が「教育課程の基準の改善の基本方針・中間のまとめ」を公表しましたが、中間とはいえ大綱の教育理念と、およその方向性を具体化しているものと言えます。その中で、教育課程の基準の改善のねらいとして4項目をあげていますが、特に、学校は生涯学習の基礎を培う場であるとの考えに立ち、学校完全週五日制の導入を契機に「総合的な学習時間の導入」「選択制の拡大、柔軟な時間割の編成の推進など、学校教育の一層の弾力化」「授業時数の削減に伴う教育内容の大幅な削減」などをあげています。

特に造形教育に関係する事として、学校週五日制完全実施を見通しながらも、子ども達がさまざまな問題や困難に積極的にかかわり、自分で考え、自分で解決していく力、すなわち「生きる力」や「考える力」を育むことが最大のポイントと捉えることが出来ます。

この「生きる力」を育むには、今までの理性に傾いた教育から、理性と感性のバランスのとれた教育が大事であり、特に、感性を創造的な自己実現に結びつけていくことと、

他人との関わり、即ち、互いのよさを認め合い、共に創る喜びを味わわせることがこれからの造形教育に必要であると思います。

昨年7月27日・28日に第47回全道造形教育研究大会が日本最東端の根室市で開催されました。

この大会での研究主題は「感性から発し、躍動する力を育む造形学習を！」でした。そして、造形活動とは事物・現象に接し、触れて、感じ取り、気持ちや感性に移入して技をもって〈新たな形〉をつくることであるとおさえ、造形教育が人間形成の役割を担う教科としての存在価値を内外に問うた大会でした。

未来に向けて無限の可能性を内に秘めた子ども達の「生きる力」は、日頃の学習活動の中で感動体験を十分に積み重ねることにより、五感を通して培われる「感性」が基礎となって育まれることから、根室大会の研究はまさに私たちが求めてきた「生きる力」の追求であると思います。

今年度の全道造形教育研究大会は48回を数えますが、「造形への誘い－悠－遊－優－留萌へ

～楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、

共感し寄り添う指導～」

の大会主題のもと、落陽の美しい海辺の町 留萌市で9月10日(木)・11日(金)の両日、開催されます。

留萌では、いしかり'95千歳大会、'96札幌大会、そして、'97根室大会と、私たちが継続して追求してきた「生きる力を育む造形活動」が更に大きく展開されることを願っています。

平成10年度

役員・本部事務局

委員長	芝 木 秀 昭	札幌市立手稲鉄北小長	事務局次長	小 尾 喬	札幌市立すすらん幼長
副委員長	重 山 恵	旭川市立雨紛中長	"	伊 藤 暢 紀	札幌市立東園小長
"	伊 藤 英 明	函館市立千代田小長	"	永 井 恭 子	札幌市立みどり小長
"	須 貝 徹	湧別町立芭露小長	"	村 谷 利 一	札幌市立稲陵中長
"	織 田 達 史	留萌市立幌糠中長	"	香 西 富士夫	札幌市立平岸高
"	奥 野 郁 男	札幌市立向陵中長	会計部長	富 田 泰	札幌市立苗穂小頭
監 査	山 口 長 伸	中標津町計根別中長	庶務部長	池 田 悦 子	札幌市立円山小
"	関 建 治	恵庭市立和光小長	広報部長	毛馬内 國 夫	札幌市立桑園小
事務局長	藤 井 正 治	札幌市立清田南小長	研究部長	阿 部 宏 行	札幌市立中央小
			事業部長	田 口 和 男	札幌市立白石小



「アート・フロンティア・北海道」への旅立ち

北海道造形教育連盟 研究部長

阿 部 宏 行

(札幌市立中央小学校)

1. 「終焉」という名の“さなぎ”

「終焉」という活字がマスメディアを通じて、連日のように報道される1998年。

「大きな物語の喪失」とともに、世界には無数の細々とした川が点在し始めた。その川は暗い海に向かって流れ込む。このような世紀末的な現象の中で、子供はいったい何を考え、そこにじっとしているのだろう。規範意識も薄れ、善悪の判断さえ曖昧になりつつあるこの世の中で、子どもは“さなぎ”のように、じっと身構えている。

けものは、野に放たれたとき、暫し、じっとしていているかのようにみえる。しかし、その実、嗅覚や聴覚も含め、あらゆる諸感覚を駆使して、生きる方法や方向を探っている。やわら、望みを一つに見据え、一步を踏み出していく。〈けものみち〉が生まれる。

“さなぎ”もまた、堅い殻の中で蠢いている。次の時代への誕生を密かにうかがいながら…。

2. 〈こどもみち〉を信じて

子供も〈こどもみち〉を持っている。大人の規制された世界を与えられながらも、その全身全霊を傾けて〈こどもみち〉を探っている。まるで、シャーマンのように魂の叫びを胸に秘めながら…

今私たちにできることは、いったい何であろうか。

〈こどもみち〉の存在を信じ、子供の自分探しの旅を妨げてはならない。なぜなら、かれらは21世紀に生きる20世紀の証人なのだから…。

3. 「アート・フロンティア・北海道」の精神

21世紀の始まりを、この開拓精神あふれる北海道の地で迎えられることの意義は大きい。

大いなる大地に鋤を入れ、文化を創造した「北海道」の地で、2001年の全国造形教育研究大会（北海道大会札幌会場 平成13年9月6・7・8日予定）が開催されるのである。

この北海道の大地は、多くの人の智慧と英知を集めて発展してきた。クラークやクロフォードなどに代表されるように欧米のよさも取り入れながら進めてきた文化の創造こそが、北海道の力であり、私たちの身体に秘められた力である。

「北からはじまる21世紀」を合言葉に英知を集め、2001年の全国大会では「北海道宣言」を声高らかに発しよう。

4. 今こそ、「美術伝道師」として

今年の留萌大会〈平成10年9月10日(木)・11日(金)〉では、参集される一人一人が美術（アート）のよさを伝え広める『伝道師』として自覚を持ち行動してほしい。留萌大会で感じたことを、是非、自分の教室や学校の子供たちに伝えてほしい。美への憧れ、造形の楽しさは、必ず、子供の心を揺さぶる。

そのためにも、大会に参集し“教師である前に、人間として”絵を描く楽しさ、ものをつくることのすばらしさを留萌の子供たちと分かち合おう。そして、新しい世界を広げる教室に立って“人間”としての自信を持って、再び子供と感動を分かち合おう。

仏教伝来以降、諸国を巡った僧侶たちの活動は、単に布教を目的としただけではなかった。ある者は、橋や治水などの土木の先駆者として活躍し、民衆の心や病を救済した教育者でもあった。世界に目を転じても同じである。自分の身体で、自分の信念のもとに、人々に伝えたのである。今こそ、私たちも「美術伝道師」としての一步を踏み出そう。

5. 2001年の北海道大会はみんなの力を結集して

連盟の組織の中に各地区サークルを結ぶ「造形ネットワークプロジェクト」がある。発足以来、名簿の編纂や各大会で研究交流を行ってきた。昨年度は「北海道教育美術展」の審査協力も実現できた。

留萌大会のネットワーク会議では、各支部から全国大会にむけた研究主題づくりや教育実践が掲載されるホームページの作成に取り組む。各地区の知恵と元気を留萌に結集し、さらに研究と交流を積み重ねていきたい。

6. 私(I)から友(You)へ、

留萌大会の主題は「造形への誘い — 悠 — 遊 — 優 — 留萌へ」である。子供が、ゆったり、楽しくイメージの世界に遊び、形や色そして材料と豊かにかかわりながら、つくりあげていく姿とそんな子供たちを温かく見守り寄り添う教師の姿が目に見えてくる。

楽しみである。

「愛」(I)は、豊かな心に育まれ、「友」(You)へと受け継がれ、さらに大きな「私」(I)になる。

「全道の造形の友への誘い

— You — You — You — 留萌へ」



もえるくに

紺碧に光るさわやかな海、時とともに次第に夕日に染まり黄金色に輝く海。この海から人々は様々な恩恵を受け、留萌の街は生まれました。留萌の海は、留萌が誇る大自然の風景です。

■期日 平成10年9月10日(木)～11日(金)

■会場 留萌市立緑丘小学校(主会場)・留萌市立留萌中学校・道立留萌高校

■研究会日程

1日目

・会場～留萌市立緑丘小学校主会場～開会式、全体会、講演会

12:15 13:00 13:50 14:10 15:40 17:20 18:00 20:00

受付	開会式	全体会	休憩	講演会	留萌歴史探訪	準備	歓迎交流会
----	-----	-----	----	-----	--------	----	-------

2日目

◆幼稚園・小学校中学校分科会

・公開授業(緑丘小・留萌中)、分科会討議(緑丘小へ)、閉会式(緑丘小)

8:45 9:30 10:15 11:00 12:00 13:00 15:00 15:30 16:00

受付	公開授業	休憩 移動	分科会 授業研究協議	昼食	分科会 提言研究協議	移動 休憩	閉会式 (緑丘小)
----	------	----------	---------------	----	---------------	----------	--------------

◆高等学校(北海道立留萌高等学校)

11:15 11:45 12:35 13:30 15:00 15:30 16:00

受付	公開授業 (留萌高校)	昼食	分科会 授業提言協議(留萌高校)	移動 休憩	閉会式 (緑丘小)
----	----------------	----	---------------------	----------	--------------

第48回全道造形
教育研究大会
留萌大会



《大会主題》

造形への誘い — 悠 — 遊 — 優 — 留萌へ

《研究主題》

～楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導～

日本一の夕日「黄金岬」

悠

悠かな昔。今から15年も前に留萌で全道大会を開催しました。1983年の第33回大会でした。研究主題「生活のふれあい、創る心のひろがりを求める造形活動」の基、日本全

優

優しさは留萌の風土です。海辺の街ということで、浜弁が少々きつい印象を初めは受けるかもしれませんが、芯は人情味のある優しい人たちが住む所です。私達、留萌地方美術教育研究会は、36名という少人数の研究団体ですが、会

員一人一人が、全道大会に向けての意志統一を図り、お互いに助け合って準備を進めています。6月初めの第二次案内発送作業でも、各学校の運動会の総練習があったにもかかわらず、何名もの先生方が駆け付けて協力してくださいました。本当に優しい人達ばかりです。(でも人に優しくすることは、自分に厳しくなります。会員の方には自分の体にも優しくしてほしいものです。)

誘

誘いは、甘くても実は…ということ、世の中結構あることですが

留萌は違います。是非、中身を見にきて下さい。今大会は研究主題「楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導」の基、実践交流の深化を、図っていきます。当地、留萌では平成7年に開催決定後、すぐに研究計画を練り、H8年度より3ヵ年計画の研究体制を敷きました。特に昨年は、道連盟前研究部長の



菅原清貴先生をお迎えして、プレ大会を開催しております。プレ大会は、管内の教員対象でしたが80名近い参加者をえて、当管内における研究団体

主催行事としましては、異例の多数の参加人数となり管内の造形活動に対する現場の先生方の関心の高さを示すものとなりました。このプレ大会の成果を本大会にも生かしていきます。

友

友人としてのお付き合いを深めることができる大会になればと考えています。

H13年度、札幌市での全国大会、道連盟が提唱している札幌大会ではなく、北海道大会にしたいという方向に沿っていきたいと思っております。そのための一つのステップとなれば、本当にやって良かったという感慨に浸ることができるでしょう。特に、今回は無理をお願いして夏休みから平日開催としました。

この平日開催についての良否も話題となれば幸いです。

遊

遊び心を持って参加して下さい。日程中の歴史探訪では、日本一の夕日「黄金岬」、増毛町の地酒「國稀」の醸造元「本間酒造」を見学します。美人ガイド

(?) 付きです。大いに留萌を満喫し、参会の先生方にとって、意義ある大会となりますよう、留萌会員の力を結集して準備を進めています。是非、夕日を見に来て下さい。

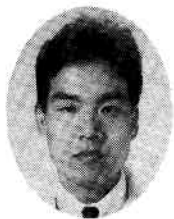
大会参加費 4,500 円・昼食 800 円・留萌歴史探訪(ガイド付き) 2,500 円・交流会費 5,000 円

参加申込先

〒078-3442 留萌郡小平町字鬼鹿田代 10 小平町立鬼鹿小学校内
第48回全道造形教育研究大会留萌大会実行委員会
事務局次長 竹内堅治 宛 ☎・FAX 0164-57-1160

問い合わせ

〒078-3304 留萌郡小平町字本郷 44-1 小平町立本郷小学校内
第48回全道造形教育研究大会留萌大会実行委員会
事務局 斉藤友昭 宛 ☎・FAX 0164-56-2275



～私の学校・私の実践～

「ふわふわ・ぽこぽこ・ごろんごろん ～雪の不思議な広場で遊ぼう～」

札幌市立大通小学校

東 尚 典

札幌市の中心部を貫く大通公園の西の端を北に2丁ほど行くと、オフィスビルやマンションの高い建物の中に小じんまりと建つ大通小学校があります。

今年、開校110周年を迎える伝統ある本校は、過去には千数百の児童が在籍していた時期もありましたが、現在では全学年単級で児童数180名ほどの市内では小規模と言える学校と変わってきました。

都会の真ん中で生活している割には、素直でのんびりとしている子供が多いのも、本校の特徴と言えるでしょう。

学校周辺は歴史的建造物、教育・文化施設が数多くあり恵まれた環境といえますが、反面、交通量の多い幹線道路に囲まれ、児童の大半は集合住宅に住んでいること等から、子供たちが安心して自由に遊べる空間が少ないことも事実です。

今回の実践は、そんな子供たちにのびのびと楽しみながら活動できる機会を与えたいという思いもあって考えたものでした。

折しも、「さっぽろ雪まつり」直後で、雪像の美しさや迫力も間近で見てきたばかりでしたので、雪を材料にした屋外活動ということで教材化を進めました。

◇ 雪を材料にした造形活動は？

北国に住む子供たちにとって「雪」は身近で格好の遊びの材料です。学校のグラウンドでなら、子供たちも安心してのびのびと雪遊びができます。加えて、雪の持つ特質、「加塑性」と「白色」という2点が、造形素材としてうってつけではないかと考えました。

しかし、過去に何度か雪像づくりに低学年の子供たちと取り組んだことがありましたが、子供たちは穴を掘ったりトンネルにしたりという活動に熱中し、何かを作ることがなかなかうまくできなかったという経験がありました。とはいえ、ただの雪遊びには終わらないための活動の条件づけが必要だと考えました。

◇ 型抜き遊びを通しての雪の造形遊び

そこで、砂遊びや粘土遊びで使われる「型抜き」の手法を、今回の雪遊びに取り入れてみることにしました。

持ち寄った（好きな）容器に雪を詰めてポコッと抜く。

出来上がった形に子供たちの驚きや喜びがある。そこから活動が連続的に生まれ、形の連続や組み合わせを考える造形遊びになっていくのではと考えたのです。

◇ 雪にどうやって色をつけようか？

雪の「白さ」を生かして、子供たちに色をつける楽しさも味わわせたいと考えました。色水を使う実践は過去に多く行われていましたし、自分自身も経験がありました。しかし、色水を雪に混ぜたり、ペットボトルなどで垂らしていくという方法では、彩色の範囲が限られ、出来上がった形を崩してしまうこともあります。そこで、洗剤のスプレーを使い、色水を霧吹き状にかけてみることにしました。この方法だと発色もよく、1年生でも比較的簡単に広く色づけができますし、色が出たときの驚きもあってより意欲が高まると考えました。

◇ いざ、グラウンドへ

子供たちはプリンカップやカップ麺の容器、お菓子の缶などをそれぞれの家庭から持ち寄り、張り切って外に飛び出しました。教師側でもバケツや段ボール箱、カラーコーンなど大きな形ができそうなものを用意しました。

活動が始まると、子供たちは思い思いに場所を選び、型抜き遊びを始めました。自分の作ったものを椅子やテーブル、お城、ケーキなどに見立てて、友達と並べたり見合ったりして活動を進めていきました。色水スプレーでは、青、黄、赤の3色を用意しましたが、予想以上に発色がよく、子供たちは喜々として色づけに興じていました。そして、寒さの中子供たちが雪遊びに熱中して、「もっとやりたい。」という声が多く聞けたのは、担任として、とても嬉しかったことでした。

とはいえ、雪を扱うのは簡単そうで、実は難しいということも改めて感じました。

①子供たちの経験を生かし、活動を広げるには？



- ・どうすれば固まる←水の使用
- ・高く積みたい←土台を広げる
- ・大きくしたい←自分を囲もう
(教師の投げ掛け、支援)

②条件設定(気温、雪質)

③水の使わせ方

と課題点も多く残しましたが、色水スプレーの効果も分かり、今回の経験(教師自身)を生かして、又チャレンジしたいと考えています。

留萌発 オホーツク行き！

第49回全道造形教育研究大会 オホーツク大会

★ 平成11年7月26日(月)～7月27日(火)〈予定〉

★ 第1日目《網走市立西小学校》 第2日目《北方民族博物館・テントランド》

オホーツク大会研究主題

オホーツク発

『思・創・喜・感』

～一人ひとりが造形的喜びを実感するために～

第49回全道造形教育研究大会が、オホーツク・ブルーの空の色と、海の色が融け合う網走の地で開かれることになる予定です。6月には、オホーツク造形教育連盟の総決起集会を行いその場で決定のはこびですが今回はその予告編ということで原稿を書かせていただいております。

オホーツク造形教育連盟は、昭和41年9月に設立以来、一貫して、会員によるたゆまぬ研修活動を通して、オホーツクの地で地道ながら、図工・美術の振興を図って参りました。

平成11年度に向けての取り組みを主題の具現化の観点から述べさせていただきます。

主題の具体化

オホーツク造形教育連盟は、児童一人一人が、本来の生き生きとした創作活動を展開し、自らそのよさや可能性などを発揮しながら、育っていくようにするために、『思』～個性、『創』～創造、『喜』～喜び、『感』～共感の観点から迫っていきたいと考えています。

思 ・児童一人一人が、感じたこと、思ったこと、自分の思いを好きな形や色、線、材料などであらわしたり、作ったりする造形活動は、児童の発達の

特性から考えて、特に親しみやすく進んで楽しみ、喜びを味わうことのできる活動です。そのためには、全過程にわたって、自分の思いなどが十分に生かされ続ける必要があります。

創 ・造形的な創造活動の基礎的な能力としては、初めに人間の本性としての表現本能や、創造本能（無関係な2つのものを結び付ける力）に基づき自分の思いを表したいという意欲をあげることができます。それらに支えられながら、造形的な感覚や感受性を発揮して、いろいろな体験や物などから感じ取ったり、想像力を働かせて自分の表現の意図や思いなどを発想し、それをふくらませながら、より良い表現の方法などを考える構想力を育成し表現させることが大切です。

喜 ・児童一人一人の思いに基づいた造形的な創造活動では、色や形、線などに対する自分の好みなどを思いのままに生かすことができます。また、自由にいろいろな試みができるなどの特性は、児童にとって親しみやすく、進んで表現活動を楽しみ、その喜びを味わうことができます。

感 ・造形活動は、作る過程において、また、できあがった作品を通して、大きな意味でのコミュニケーション活動であるといえます。

したがってより良い創造的な造形活動を生み出すためには、児童と児童、児童と教師が、信頼し合う暖かい雰囲気が必要になります。

そのためには、児童一人一人と機会をとらえて付き合うようにし、そのよさを感じるようにすることが基本になるのではないのでしょうか。つまり、愛情ある共感的な理解でなくてはならないものと考えます。

第25回北海道教育美術展

会期 平成11年1月13日(水)～18日(月)

第24回 奨励賞作品



札幌市立太平南小 6年 須磨 俊輔

主催 北海道造形教育連盟
北海道新聞社
後援 北海道教育委員会
協賛 さっぽろ東急百貨店



株式会社 サクラレパス

北海道教育美術展は、全道各地の保育所、幼稚園、小学校、中学校の子ども達の作品を集めた道内最大規模の展覧会です。子どもの想いにあふれ、素直でのびのびとした作品が多く、指導者の熱意と共に全国的に高く評価されています。

今年度も、子どもらしく楽しい作品、豊かな感性にあふれた作品を期待しております。

日常の学習で取り組まれた作品を多数応募くださいますようお願いいたします。

【応募規定】

- ◇絵画、版画、デザイン等の作品とし、学校(園)を窓口として応募する。
- ◇大きさは4つ切り。4つ切り以下の作品は4つ切り大の台紙を貼ること。
- ◇一人1点の出品とする。また、新しい表現の作品についても検討され、次のような基準で半立体作品も取り上げられています。
 - ・積み重ねてもつぶれない、かさばらないこと。
 - ・接着が強固ではがれないこと。
 - ・画鋸で展示が可能な重量であること。

教育美術展の奨励賞作品を研修会で活用を

奨励賞作品は、造形連盟事務局まで申し込みいただければ貸し出しをします。また、スライドも用意しています。

(ただし、貸し出し料・送料は実費負担)

締切 平成10年12月16日(水)

問い合わせ先

札幌市立白石小学校 田口 和男
TEL 011-861-9265 FAX 011-861-2309

北海道造形教育連盟ネットワーク ホームページ開設へ

本部研究部 ネットワーク部門 北海道教育大学附属札幌小学校 野 切 卓

'93年の旭川大会で産声を上げた全道造形教育ネットワーク部門も今年で6年目を迎えました。これまで18支部の会員名簿の整備や全道大会の作品展を行ってきました。昨年の根室大会では、研究主題にかかわる話し合いを持ち、全道の研究を結びつける役割を果たしました。今年度は新たな段階へ一歩進め、インターネットホームページを開設します。このホームページを介して会員相互や連盟以外の方との交流を広げることができると考えています。ホームページに関するご意見ご要望がありましたら、お知らせください。また、各支部の会員の方でインターネットを利用している方は、ぜひ次のアドレスへEメールを送ってください。

ホームページ担当者アドレス nogiri@asahi-net.email.ne.jp

あ と が き

もえるくに留萌は9月。'83年以来の大会ということですが、3カ年計画の着実な積み重ねでプレ大会も80名の参加者で盛り上がりを見せています。全国大会へ向けての大きなステップにもなるにちがいありません。

全道各地の意見・実践の交流が実るよう参加準備を進めましょう。あなたも、anatamo, YOU, 友, 誘!

広報部(土肥 宏充, 東 尚典, 加藤 正幸, 小泉 誠, 小林 万咲彦, 山室 ゆかり, 富田 賢司, 中山 龍男, 毛馬内 國夫)